

数学科 中学校 2年

単元名 資料の活用（確率）
啓林館「未来へひろがる数学2」

単元の流れ（全5時間）

【第1次】 確率の意味（本時）

主な学習内容

◇第1時 確率の必要性と意味を理解する。

【第2次】 数え方のくふう

主な学習内容

◇第2・3時 図や表を使って場合の数の求め方を理解する。

【第3次】 確率の求め方

主な学習内容

◇第4時 簡単な場合についての確率の求め方を理解する。

【第4次】 不確定な事象の説明

主な学習内容

◇第5時 確率を用いて不確定な事象をとらえ説明する。

単元目標

○不確定な事象についての観察や実験などの活動を通して、確率について理解する。
確率を用いて不確定な事象を考察し、表現する。

「活用」の力を育てるポイント

- ① 日常生活や社会における不確定な事象を数学の考察の対象とし、数学の必要性を理解できるようにする。
- ② 多数回の試行を行うなどの経験（硬貨を投げる実験等）を通して、ある事柄の起こる割合が一定の値に近づくことを実感を伴って理解できるようにする。
- ③ 確率を求めることだけを目的にするのではなく、不確定な事象に関する問題解決を重視し、確率を根拠として説明することを大切にする。

単元構成の意図

小学校算数科では、具体的な事柄について起こりうる場合を順序よく整理して調べることがを学習し、中学校第1学年では、相対度数は、全体に対する部分の割合を示す値で、各階級の頻度として見なされることを学習してきた。

本単元では、これらの学習の上に立って、さいころの目の出方など「必ず～になる」とは言い切れない事柄についても数を用いて考えたり判断したりすることができることを理解し、数学と実生活や社会との関係を実感できるようにする。

CLICK

評価問題



本時の流れへ

HOME